

あけましておめでとうございます。

今年も日比谷図書文化館が、お気に入りの1冊との出会いや、知的好奇心にあふれた交流の場になりますように。皆様のご来館お待ちしております。

『龍の世界』  
池上 正治 著  
講談社学術文庫  
2023年



龍が出てくる物語、いくつあげられますか？

『歌舞伎名演目 時代物』  
松竹株式会社 監修  
美術出版社  
2018年



年の初め、伝統芸能にふれてみよう！

『しめ飾り造形とその技法 葉を綯い、春を寿ぐ』  
鈴木 安一郎・安藤 健浩 著  
誠文堂新光社  
2019年



お正月に欠かせない、しめ飾りの歴史や制作技法を紹介。

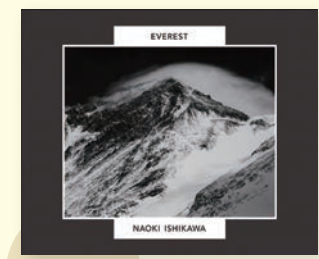
展示 PICK UP

2F パープルゾーン 三角台 ~2/18(日)

特別展 「石川直樹:ASCENT OF 14—14座へ」 関連展示



写真家・石川直樹氏の著書と、展示内容にあわせて山・登山・探検をキーワードに集めた本をご紹介します。エベレストなど世界の山々や大自然が感じられる写真集、未踏の地への探検記、登山を安全に楽しむためのガイドなど、ぜひ特別展とともに楽しみください。



『ぼくの道具』  
●石川 直樹 著  
●平凡社  
●2016年



『EVEREST』  
●石川 直樹 著 ●CCCメディアハウス ●2019年

3F エレベーターホール ガラスケース ~2/17(土)

日比谷図書文化館所蔵 貴重書紹介展示 「西洋から見たニッポン」モンタヌス『日本誌』



日本は西洋にどう伝えられたのか。当館の特別コレクション「内田嘉吉文庫」より、17世紀のオランダで刊行されたモンタヌス著『東インド会社遣日使紀行』(1669・英訳題『日本誌』)を展示します。牧師で流行作家のオランダ人モンタヌスは訪日せず執筆したこと、和田萬吉が邦訳(1925)を出したこと、そしてフェルメールや馬琴も登場し、蔵書を交えて紹介します。



『おかしなジパング図帳帖 モンタヌスが描いた驚異の王国』  
●宮田 珠己 著  
●パイインターナショナル  
●2013年

『モンタヌス日本誌』  
●和田 萬吉 訳  
●丙午出版社  
●1925年

『フェルメールの帽子』  
●ティモニー・ブルック 著  
●岩波書店  
●2014年

1月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 千代田区観光協会コラボ展示 「ちよだ歴史さんぽMAP」で第2弾「浮世絵名所」(～2024/3/15)  
千代田区観光協会が発行している「ちよだ歴史さんぽMAP②ちよだ浮世絵名所めぐり」を取り上げ、関連書籍を紹介します。さんぽMAPの内容をより深く知ることによって千代田区の歴史や観光、さらに浮世絵を身近に感じてもらう展示です。

3F ブルーゾーン 「『逃げる』という戦略」(～2024/2/16)  
「逃げる」という言葉にはネガティブな印象を持ちやすいですが、危機を察知して逃げることは自分を守ることに繋がります。この展示では良くないこととされている「逃げ」の認識を転換させる様々な回避戦略をご紹介します。

3F グリーンゾーン 「大人だって遊びたい!」(～2024/1/12)  
日々忙しく時間に追われがちな大人。そんな大人にとって「遊び」や「趣味」は毎日の生活を向上させ、心のゆとりを保つために必須の要素です。また世代を超えた交流ができるのも、「遊び」や「趣味」の醍醐味といえるでしょう。この展示をヒントに新しい楽しみを探してみたいかがですか。

年始のおすすめ本 1月から始まる大河ドラマの主人公は平安時代に活躍した女流作家、紫式部。彼女が書いた源氏物語は多くの人に愛されてきました。当館では下記の現代語訳源氏物語を所蔵しています。これを機にぜひ読んでみてください。

タイトル	訳	出版社	1巻発行年
源氏物語 全10巻	瀬戸内 寂聴	講談社	1996年
全訳源氏物語 全5巻	与謝野 晶子	角川書店	2008年
謹訳源氏物語 全10巻	林 望	祥伝社	2010年
日本文学全集4～6巻 源氏物語	角田 光代	河出書房新社	2017年
源氏物語 A・ウェイリー版 全4巻	アーサー・ウェイリー / 英訳 穂久 まりえ・森山 恵 / 訳	左右社	2017年
ウェイリー版 源氏物語 全4巻	アーサー・ウェイリー / 英訳 佐復 秀樹 / 訳	平凡社	2008年

特別展 石川直樹:ASCENT OF 14—14座へ



Nanga Parbat 2022 / Naoki Ishikawa

12/16(土)→2024.2/18(日)

※休館日:12月18日(月)、12月29日(金)～1月3日(水)、1月15日(月)  
◎開室時間:月～木・土:10時～19時、金:10時～20時、日・祝:10時～17時(入室は閉室の30分前まで)  
◎会場:1階特別展示室 ◎観覧料:一般300円、大学・高校生200円、千代田区内在住者・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(各種確認できるものを提示)  
◎主催:日比谷図書文化館

2/4(日) 関連講座 子ども向けワークショップ  
ほんのちょっとヒマラヤを体験する  
講師:石川 直樹(写真家)  
石川氏による絵本『シェルバのボルバ』(石川 直樹 著)の読み聞かせや実際に使用している登山用具の紹介などを行います。  
■日時:2月4日(日)14:00～15:30(13:30開場) 受付開始:1月16日(火)～  
■会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:20名(事前申込順、定員に達し次第締切)  
※対象:小学生(保護者1名様の同伴が必要) ■参加費:1000円

写真家の石川直樹は、人類学や民俗学的な関心を持ってあらゆる場所を旅しながら作品を発表し、多くの展覧会や写真集を手がけてきました。また、近年ではヒマラヤの高峰に通い、新たな作品を生み出し続けています。本展のタイトルが示す「14座」とは、ヒマラヤ山脈とカラコルム山脈にまたがる8000m峰、14の山々を指しています。本展では、2001年にはじめて石川がチベットの地に足を踏み入れて以来、22年間にわたって関わってきた14の山々の写真を展示するとともに、図書館の蔵書や新聞記事を掘り起こし、これまで人々がヒマラヤの山にどういった関心を抱いてきたのか、テキスト等を紹介しながら、文学的・文化的なアプローチで山／登山の姿を明らかにしていきます。



Nanga Parbat 2022 / Naoki Ishikawa

【みどころ】  
初公開の写真も展示!  
石川氏は2023年9月に8000メートル峰14座のうち、まだ登っていないチョー・オユとシヤパンマの登頂を目指しました。今回は、最新の写真も含めた全14座の姿をご覧いただけます。  
図書館の施設だからこそできる、特徴を生かした展示!  
写真の展示だけでなく、ヒマラヤに関する館内外の蔵書や資料も一緒に展示します。また、館内でも関連図書展示を行っています。

calendar 開館時間:平日10時～22時 土曜10時～19時 日祝10時～17時 休館日

2024年1月							2024年2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28	29		

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。

access  
〔都営地下鉄〕  
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
〔東京メトロ〕  
●丸の内線  
●日比谷線  
「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分  
●千代田線  
「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分  
JR「新橋駅」徒歩10分  
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。



# 1・2月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 1/9 (火) 患部を狙って薬を運ぶナノマシン

効率の良い治療が期待できる「がん」「認知症」の近未来医療  
講師：片岡 一則(工学博士)

2万分の1mmほどの小さな粒「ナノマシン」が体内の狙った組織に薬を運ぶことにより、投与量と副作用の低減が期待されます。本講座では、SF映画の世界を現実のものにする研究として、川崎市臨海部で進む「ナノマシン」を用いた近未来の医療についてお話しします。  
(協力：公益財団法人 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター)

- 日時：1月9日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円



## 1/12 (金) 上廣・日比谷ライブラリーレクチャー 私のチャレンジ人生 第3回 「内戦下のスーダンで究極の医療を考える」

講師：川原 尚行(認定NPO法人ロシナンテス理事長、医師)

国際社会の歪みから民兵を増長させ、国軍との主導権争いで内戦に発展したスーダン。貧困のために民兵にならざるを得ない悲惨な状況の中でも地域に暮らす人たちに医療を届ける活動を続けている川原氏。2019年にはザンビアでの支援も開始し、新たな技術の導入を試みています。戦地での医療を経験する川原氏が究極の医療についてお話しします。  
(主催：公益財団法人 上廣倫理財団、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：1月12日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：500円(千代田区民・学生は無料)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



## 1/16 (火)他 日比谷オペラ塾 オペラ・あ・ら・かと bis(全3回)

オペラ初心者から愛好者までが楽しめる多彩なオペラの魅力を縦横に紹介します。1月は、ビゼーの代表作である「カルメン」からフランス・オペラの特質について、フランス・オペラが専門の井上さつき氏が解説します。(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：1月16日(火) 19:00～20:30(18:30開場)

第1回 フランス・オペラとしての「カルメン」  
講師：井上 さつき(愛知県立芸術大学名誉教授)

---

2月8日(木) 19:00～20:30(18:30開場)  
第2回 ロッシーニ・ルネサンスの現在地～聖地ペーザロ音楽祭から～  
講師：朝岡 聡(日本ロッシーニ協会副会長・コンサートソムリエ)

---

3月14日(木) 19:00～20:30(18:30開場)  
第3回 エリザベス朝3部作(ドニゼッティ)とその時代  
講師：石井 美樹子(神奈川大学名誉教授)

- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：各回60名 ■ 参加費：各回1500円 ※各回ごとのお申込みが可能です。



## 1/18 (木) 略奪文化財のいまを考える① 広がる美術品返還 —「不当な収奪」と「正当な収集」を分けるもの—

講師：郷原 信之(日本経済新聞社 編集・文化グループ部次長)

欧米の美術館や博物館を中心に相次ぐ、過去に略奪や違法取引があったと判明した文化財を元の持ち主に返還する動きについて解説します。近現代の世界史が積み残した戦争や植民地支配の清算という根底的な課題を踏まえつつ、法律や政治外交といった専門の枠を越えた包括的な解決への道筋を探ります。

- 日時：1月18日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■ 参加費：1000円



## 2/27 (火) 星のソムリエ® 星空教室 第5回「もう一つの地球を探して」

講師：皆川 敏春(星のソムリエ®みたか) 北崎 直子(星のソムリエ®みたか)

満天の星空を眺めていると、もしかしたら地球と似た惑星があるかもしれないと思ったことはありませんか？続々発見される太陽系外惑星の中には、地球とよく似た惑星も見つかっています。近い将来、人間が移り住めるような惑星も発見されるのかもしれません。今回はそうした「地球探し」の旅に出てみましょう。

- 日時：2月27日(火) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円



View of the Earth seen by the Apollo 17 crew traveling toward the moon (NASA)

## 2/29 (木) ちよだの歴史と文化の講座 千代田区の自然史 —地形と環境の変化をたどる—

講師：濱口 皓(日比谷図書文化館文化財事務室 学芸員)

千代田区は地形分類上、武蔵野台地と東京低地の大きく二つのエリアを含んでいます。台地と低地は、その形成時期や形成過程が異なります。その痕跡をたどると、環境の変化や各時代の人々の暮らしを垣間見ることが出来ます。区内の地形の特徴と、今とは大きく異なる過去の環境について紹介します。  
(主催：千代田区・千代田区立日比谷図書文化館)

- 日時：2月29日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：500円(千代田区民無料)

※1月9日(火)から受付開始



上空から見た千代田区の様子(西から)

## 特別研究室 企画展示

### 内田嘉吉文庫の探検記・紀行書に見る山の記憶～富士山とヒマラヤ周辺の風景～



ヒマラヤ 月明かりの峠越え (『Views in India, chiefly among the Himalaya mountains』/1838年)

内田嘉吉文庫の蔵書構成の特色の一つとして探検記・紀行書が多いことが挙げられます。それらの中には山岳地帯の図版も多く収められています。今回の企画展示では特別展「石川直樹：ASCENT OF 14—14座へ」にちなみ所蔵資料の中から山の風景やそこに暮らす人々の様子、また、幕末期に来日した西洋人が描いた富士山の図版を中心に紹介します。4階エレベーターホールの「名所江戸百景に見る富士山」とあわせてご覧ください。

- 主な展示資料(予定)

『The National Geographic Magazine』  
『Japan and around the world an account of three visits to the Japanese empire』(1855年)  
『Atlas du Voyage d'Exploration en INDO-CHINE』(1873年)ほか

- 期間：開催中～1月14日(日)
- 開室時間：平日10:00～20:00 土曜10:00～18:00 日曜・祝日10:00～16:00
- 会場：4階特別研究室



## ◆古文書塾てらこや本講座 開講◆

古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学んでいただける「古文書塾てらこや」。多種多様な講座を開催します。



	講座名	曜日・時間	実施日	
入門コース 120分 (全5回)	古文書のいろは 筆字のくずし字	(月) 10:30～	1/22	
		(月) 13:30～	1/22	
		(火) 10:30～	1/16	
		(木) 13:30～	1/18	
		(金) 13:30～	1/19	
本科コース 120分 (全5回)	いろはの次—大江戸大変	(月) 18:30～	1/22	
		いろはの次—古文書いろいろ(午前クラス)	(火) 10:30～	1/9
		いろはの次—古文書いろいろ(午後クラス)	(火) 13:30～	1/9
		文人画と碑文—掛軸を読む	(日) 13:30～	1/28
		古文書の保存・修復の知技能—古文書保存のセラピスト講座	(火) 13:30～	1/16
特別講座 90分 (全5回)	幕末・江戸庶民の世相を読む—「弘化雑記」の世界	(水) 13:30～	1/17	
		幕末・江戸庶民の世相を読む—「弘化雑記」の世界	(木) 10:30～	1/11
		くずし字で楽しむ江戸歌舞伎	(土) 13:00～	1/20
		大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	1/9
		開国ニッポンの外国人	(水) 13:30～	1/10
特設 月1回コース 90分(全3回)	江戸を楽しむ—江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～	1/11	
		江戸・明治の書状を読む—形式と内容、一步から	(金) 18:30～	1/12
		ハーバード大学蔵『源氏物語 須磨』を読む	(金) 13:00～	1/12
	陽明文庫蔵『源氏物語 桐壺』を読む	(金) 15:30～	1/12	

- 会場：4階スタジオプラス、セミナールーム
- 定員：各講座23名(申込順)
- 参加費(初回一括払い)：  
【入門コース】【本科コース】16,800円(全5回/各回120分/資料代500円)  
【特別講座】13,650円(全5回/各回90分/資料代500円)  
【特設・月1回コース】8,190円(全3回/各回90分/資料代300円)  
※特設・月1回コース「ハーバード大学蔵『源氏物語 須磨』を読む」には、別途テキスト、同『源氏物語 須磨』(1,760円 税込/2013年 新典社)が必要です。(当館でのご用意も承ります。)  
※てらこやに関する資料をご希望の方には無料で送付いたします。
- 資料請求・講座のお問い合わせ：  
電話(03-3502-3340)日比谷図書文化館代表 古文書塾てらこや担当迄

## 日比谷図書文化館 オリジナルおみくじ 2024

どなたでもご参加いただけるオリジナルおみくじです。吉凶の他に日比谷図書文化館の館内にまつわる場所がラッキーゾーンとして書かれています。おみくじに書かれた場所を訪れば2024年も素敵な1年が過ごせるかも?!(参加無料)

- ◆ 日時：1月4日(木)～1月11日(木)
- ◆ 場所：日比谷図書文化館1階ロビー ※おみくじがなくなり次第終了

## From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのおしらせ】

### 企画展示

# コレが欲しい!!

## 物欲マシマシの“美本”たち

### —54th/55th 造本装幀コンクール—

1966年(昭和41年)から毎年開催されている「造本装幀コンクール」の入賞作品から第54回・55回をピックアップして紹介。手元に置いておきたくなる、物欲が刺激される。秀逸な造本装幀の数々をお楽しみください。

- ◆ 会期：開催中～2月24日(土)
- ◆ 会場：千代田図書館9階 展示ウォール
- ◆ 協力：一般社団法人 日本書籍出版協会  
一般社団法人 日本印刷産業連合会

